

星視幻のウ

光世紀パトロール・シリーズ



徳間書店

ランダウの幻視星

1981年12月31日 第一刷

定価は帯・カバーに表示してあります

著者 石原 藤夫

発行者 徳間 康快

発行所 株式会社 徳間書店

東京都港区新橋四のー〇
電話東京(433)六二三一(代表)
振替東京 四一四四三九二番

(乱丁・落丁本は本社またはお買い求めの書店にてお取り替えいたします)

〈編集担当 久保寺 進〉

印刷・図書印刷株式会社 製本・大口製本印刷株式会社

© 1981 Fujio Ishihara Printed in Japan

目次

第一話	さいだん座四一番星	11
第二話	わし座のアルファ星	63
第三話	光世紀船『 スターボウ 星虹号』	111
第四話	ランダウの幻視星	165
第五話	ヴァン・ビーズブローク星	231

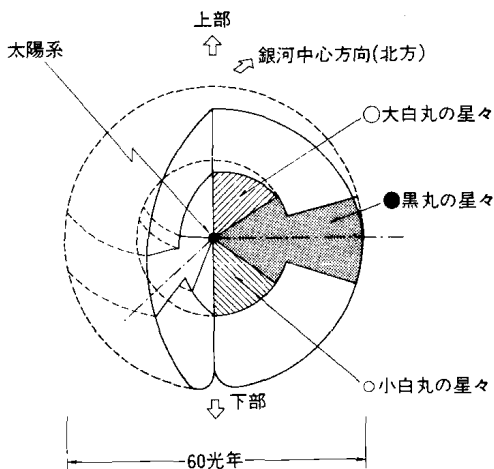
“光世紀”星図

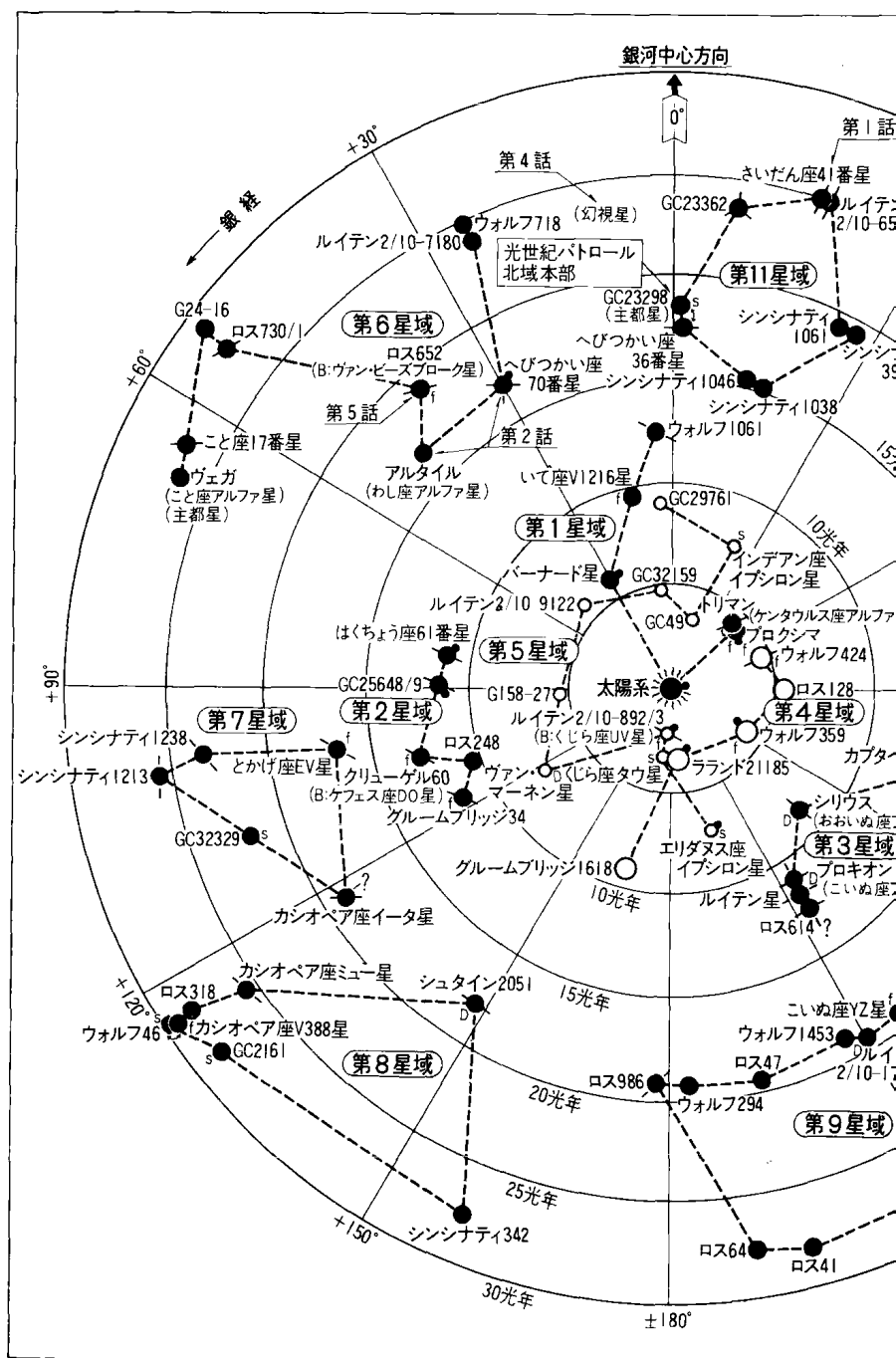
すべて実在の恒星である



- 太陽系を中心とした直径60光年の“光世紀”の星々を図示してある。
- 黒丸は太陽系と同一の銀河面に近い星々、大きな白丸は太陽系の上部の15光年以内の星々、小さな白丸は下部の15光年以内の星々をあらわす(記号は次図参照)。
- 第4話の幻視星以外はすべて実在の恒星である。幻視星も実在しうる恒星である。
- 第11星域の主都星“G C 23298”は“再生クローン”希望の星であり、それをめぐる星庁惑星“アイルート”には『光世紀パトロール』の北域本部がある。そこはまた光世紀パトロール宇宙艦《オレーム2世号》の帰投基地でもある。

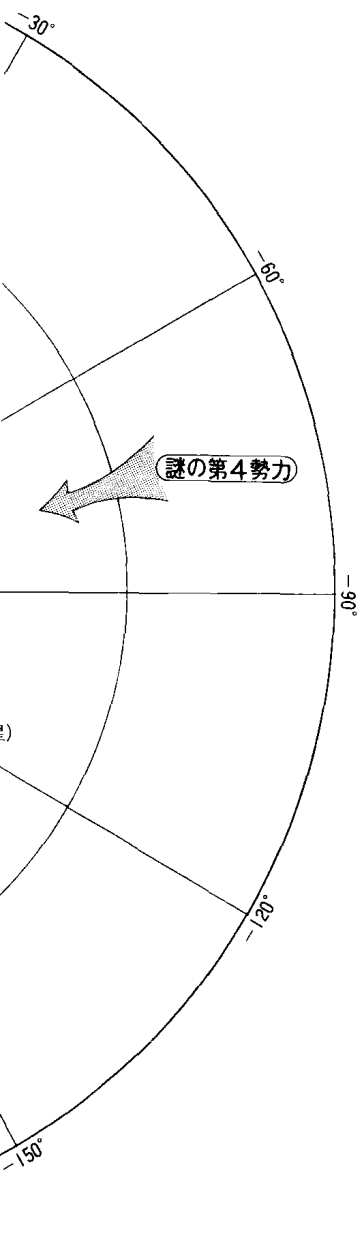
説明図





光世紀世界・勢力分布図

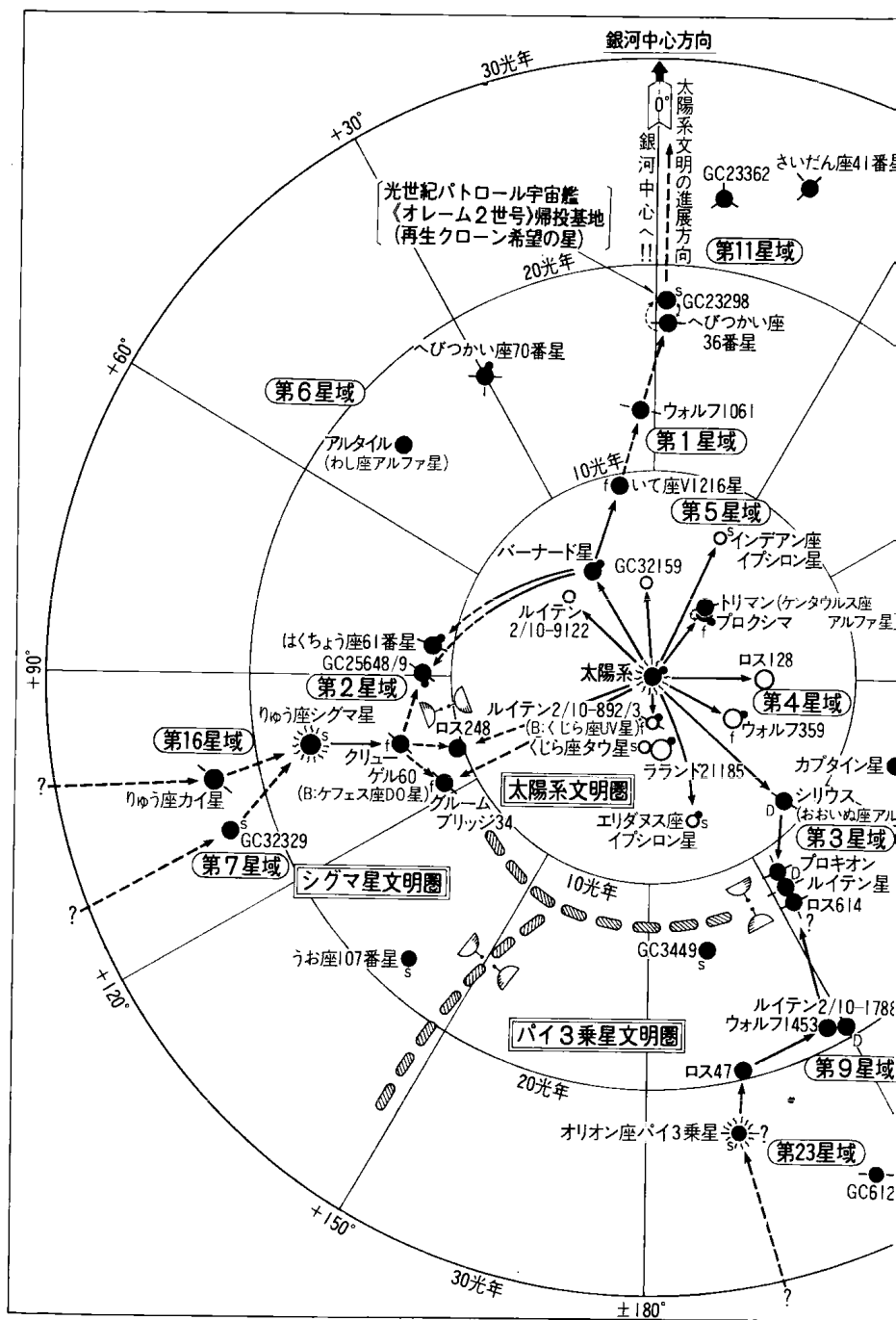
すべて実在の恒星である

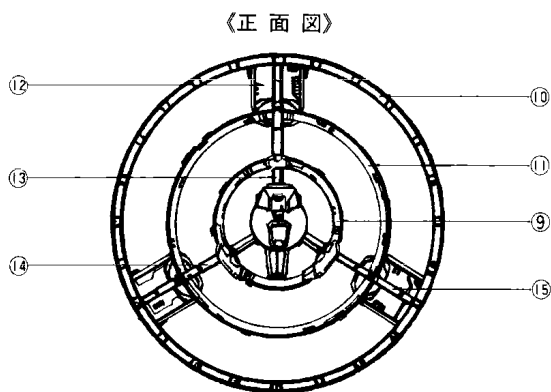
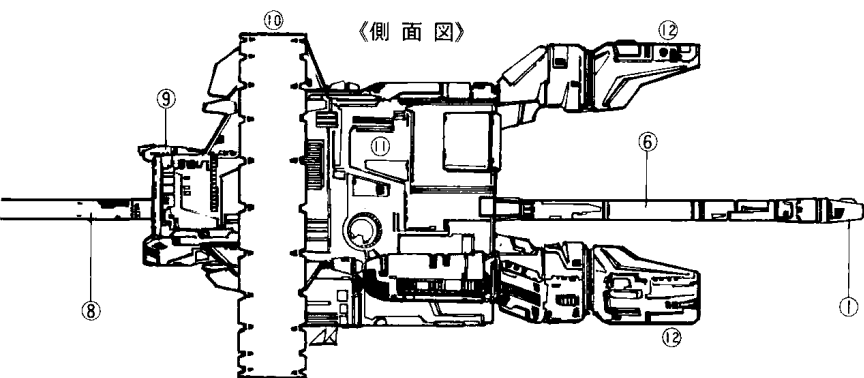


- 22世紀初頭の“光世紀世界”の勢力分布の略図である。
- 前ページの星図にない星があるのは、太陽系の上・下部で15光年以遠の星域を含めて図示しているためである。
- 太陽系文明は銀河中心方向への進出を図ろうとしている。
- 南方のパイ3乗星文明は第23星域（紙面の下部）の“パイ3乗星”を本拠地とする。
- 西方のシグマ星文明は第16星域（紙面の上部）の“りゅう座シグマ星”を本拠地とする。
- 3大文明鼎立の“光世紀世界”に東方より謎の第4勢力の影が忍び寄りつつある。

記号表

● ^s	太陽類似の恒星
● ^d	白色矮星
● ^f	閃光星
● ⁺	実視連星
● ⁻	非実視伴星
● ^o	惑星的暗黒伴星
●-?	支持する人の少ない非実視伴星
● ¹ _{f d}	三重連星のAに非実視伴星があり、Bが白色矮星、Cが閃光星との意
〕	同一固有運動をする星





オレーム2世号(ニックネーム:「光世紀の黄金環」)

SPECIFICATION

DATA

◎中央シャフト 全長1000m

◎スーパー・ダクター・コイル使用

◎主要ドラム 全長200m

(超高温超電導コイル)

◎主要ドラム最大直径 200m

◎光速伸張エンジン

(総て概数)

◎ヘライス・フィールド使用

◎光速伸張時速度

◎反物質燃料系

●随伴係数 M ≥ 10000

◎重力制御方式

●光速比 0.1以上

◎波動および粒子ビーム砲他火器数種

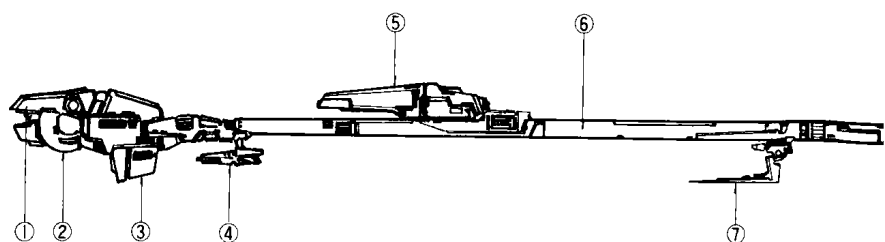
(最高記録 時速0.138光年)

◎搭載船舶: 哨戒艇・偵察艇他数種

◎光世紀パトロール北域本部所属

◎超空間レーダ装備

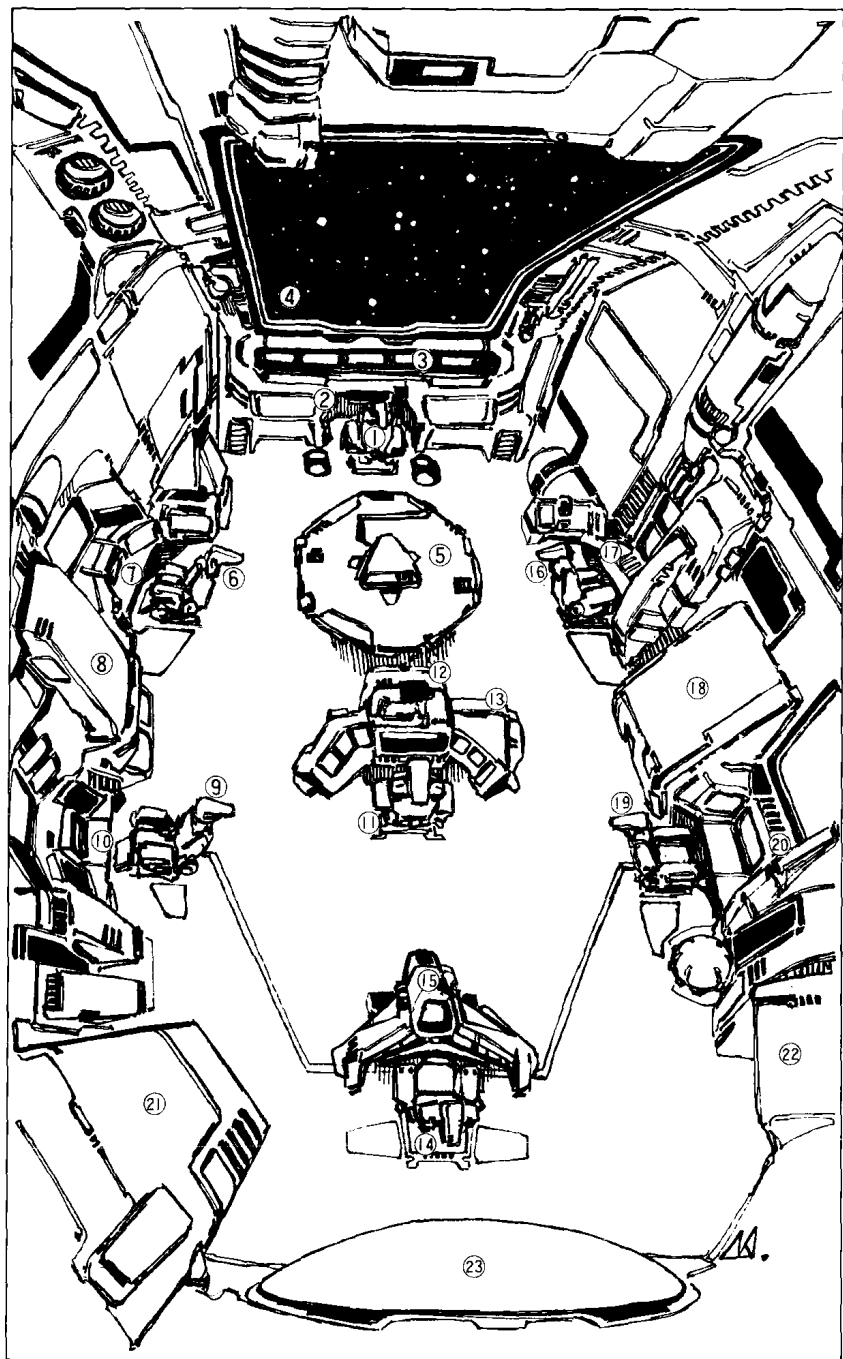
光世紀パトロール《オレーム2世号》形式図



- ① 波動ビーム砲
- ② 超空間レーダ・スキャナー
- ③ 観測システム
- ④ 粒子ビーム砲
- ⑤ ブリッジ
- ⑥ 中央シャフト
- ⑦ 通信系クラスター
- ⑧ 居住区
- ⑨ 第3リング=人工頭脳系ドラム
- ⑩ 第1リング=スーパー・ダクター・コントロールドラム
- ⑪ 第2リング=ヘライス・フィールド発生コイル,
光速伸張メカニクス, 反物質燃料ドラム
- ⑫ 光速伸張エンジン × 3
- ⑬ 第1支持翼 × 3
- ⑭ 第2支持翼 × 3
- ⑮ 第3支持翼 × 3

オレーム2世号・ブリッジ

①	ナビゲイター・シート(レイモンド・バートン用)
②	操 舵 卓
③	航法表示コンプレックス
④	マスター・スクリーン
⑤	作 戦 会 議 卓
⑥	通信・火器オペレーター・シート(エロイズ用)
⑦	通信・攻撃マスター・コンプレックス
⑧	人工頭脳マスター・ターミナル
⑨	戦術解析シート(ナポレオン用)
⑩	メモリー・キーボード卓
⑪	キャプテン・シート(隊長ヨハネス・ケブラー用)
⑫	司令(マスター・コントロール)卓
⑬	ヴィジプレート
⑭	異星生物・医療責任者シート(ルーシィ・グラスペル用)
⑮	艦内環境制御卓
⑯	エンジン・コントローラー・シート(シュールベルト用)
⑰	エンジン・メカニクス制御卓
⑱	ロボット・メカニクス・マスターターミナル
⑲	スベア・シート(フローラ・ティベリウ#2用)
⑳	スベア・コントロール・ユニット
㉑	光速伸張中央制御室
㉒	艦内各部分への通路
㉓	“光世紀世界”表示パネル



イラストレーション 宮武一貴

デザイン 矢島高光

本文作図 宮武一貴・三宅悌司

第一話　さいだん座四一番星

☆さいだん座四一番星

41 Ara

絶対実視等級 六・〇七J(A)

九・二八(B)

太陽系からの距離 二四・九光年

スペクトル型 G8V(A)

MOV(B)

実視二重連星であるほか、たぶん光学
的であろうが、他に二つの伴星をもつ
可能性がある。

著名カタログ番号

(A)

BS 六四一六

GC 二三三三三

HD 一五六二七四

DM 一四六 一一三七〇

GCRV 九九七七

LFT 一三二四

Y 三九一九A

GL 六六六〇A

R 六六六A

光世紀カタログ 一三三〇

(B)

LFT 一三二五

LT 六八八七

Y 三九一九B

GL 六六六〇B

R 六六六B

光世紀カタログ 一三四〇

光世紀・第一一星域に所属

広いブリッジの中央前方にある操舵席で、レイモンド・バートンは黒いあごひげをなでた。航海専門士としての職業意識に目覚めたときのくせである。

「ム——」

バートンの太い腕が動いて、正面の大スクリーンの一隅にうつっていた小さなしみのような点が中央に移動し、拡大した。

武骨な太い腕に似合わない、流れるような正確無比な操作である。

ブリッジのほとんどのメンバーの視線が、その拡大した点にそそがれた。

それは鳥の形をしていた。奇怪な宇宙艇だった。「怪鳥」という呼称がびったりしているようにみえた。

「第二一星域」のリストには船籍は見あたりませんな」

けだるそうな声をだしたのは、左舷席のきやしゃな男だった。おっそろしく古風な黒ぶち眼鏡をきどってかけ直しながら、さかんにキーボードをたたいている。

宇宙艦内のメモリーから、なんとか船籍をさぐりだそうとしているのだ。

その右がわのコーナーで、コンピュータと通信装置をあわただしくいじりまわしていたエロイズが、その手をちょっと休めて、黒ぶち眼鏡に声をかけた。

「ねえナポレオン、そうとうなスピードじゃない？　つかまえてレースに使ったらどうかしらね……どうせ違法航行なんでしょう？」

「そりゃまあ、そうですがねエロイズさん——」ナポレオンと呼ばれた黒ぶち眼鏡の男は、あきれたように言った。ブリッジのメンバーのなかで彼だけはパトリール・スーツを着用していない。ラフな服装である。「——こりゃ、そう簡単につかまえられるような相手じゃありませんよ。スパー・ダクターをたっぷり使った強力な磁場エンジンをそなえているにきまってます。レースに出すには馬力がありますな」

「じゃ、ビーム砲でズドンね！」

エロイズはこう言ってむじやきに笑った。

かの女はあらゆる意味でナポレオンと正反対の隊員だった。

豊かなプラチナ・ブロンドが肩に流れ、青く透明な瞳が情熱的に輝いている。肌の色は陶器のように白い。

官能的な女で、スポーツカーを思わせるとがった乳房とまろやかに隆起した臀部が、銀色のパトリール・スーツをはじけさせそうだ。

だが、その全身は鍛えあげられていて、ぜい肉はない。

すらりと伸びた四肢は弾力と強靱さとをあわせもって、まるで女豹のそれである。

ナポレオンは小柄な身体をちょっと猫背にして、苦笑した。

「まったくお嬢さんにはかなわない。相手が何者かもまだわかつちやいせんよ。＂女のいる所には悪魔がいる＂とはよく言ったものですなあ」